

教行信證諸版本展觀

山 上 正 尊

端書

大正十三年十一月二十八日高倉會館に於て舉行。同會館創設以來こゝに三度報思講を迎ふ。由來この御正忌には宗祖に因める講演を舉行し來つた。一昨年は「御傳鈔」に依つて祖傳を稱揚し、昨年は七祖に就て宗祖の傳燈を欣嘆したから、本年は宗祖の製作、特に「教行信燈」並に「和讚」に就いて讚仰することとなつた。そこでこれを期し且は此舉を一層意義あらしむべく「教行信證」の展觀を試みることを依頼せられたので、可西大秀兄の助力を得て急擧その諸版本を蒐集陳列をし、同時にこれが目録を編み印刷頒布して有縁の同朋と共に「御本書」傳持流行の跡を偲んだのであつた。

同日は殊に加藤智學兄の斡旋に依つて、一昨年關東の震災に東京淺草大谷派本願寺別院寶藏の餘燐中にあつて、僅に焼失の厄を免れたる「阪東本教行信燈」六冊

を安置することを得。また多年傾注せらるゝ山田文昭師に依つて「御本書」の傳來に關する講演をせられたことは誠に光榮の至であつた。小生菲才寡聞の爲め諸版本云つても、恐くその全貌を盡し兼ねたこゝではなかつたし、加ふるにその目録も校正の疎漏もつたらし、また短時日の試の爲めに十分の準備が整はなかつたし、他日完て甚だ杜撰で慚愧にたへぬ次第であつた。こゝに更にその目録を轉掲して將來諸師友の是正を待ち、他日完全を期し度いこ念ずるのである。幸に指導を垂れ給はんことを。

教行信證諸版本展觀目録

本 文

1 阪東報恩寺傳來御真蹟寫眞本
大谷派本願寺藏版、大正十一年九月十日、立教開宗七百年紀念版行。

2 本派本願寺傳來筆蹟寫真本

四 冊

年東西兩本願寺の抱版となる。以下の諸本參照。

本派本願寺藏版。大正十二年一月一日、立教開宗七百年紀

念版行。

3 寛永刻本 大本美濃半紙九行十七字

八 冊

卷尾に「寛永丙子(十三)孟春吉日中野市右衛門新刊」^ミ、本典刊行の嚆矢なり。此本の由來は信卷本終の奥書にて知るべし。安永五年大谷派本願寺藏版となる。

4 正保刻本 同

八 冊

寛永版の補刻。卷尾に「正保丙戌(三)仲春吉旦中野氏是誰重刊行」^ミ、後大阪書肆にて版木焼失す。

5 明暦刻本 大本美濃半紙八行十七字詰

八 冊

書肆の刊行なし、恐く最古の摺本の如し。次下諸本參照。

6 同 同

八 冊

卷尾に「五條橋通松屋町」^ミ。

7 同 同

八(四)冊

卷尾に「明暦丁酉(三)仲冬吉旦五條橋通扇屋町丁子屋西村

九郎右衛門新板」^ミ、後に錢屋庄兵衛と共有の版となり、

安永五年本派本願寺藏版となる。

8 同 同

四 冊

本派本願寺藏版。卷尾に「龍谷山開闢」の朱印を捺す。この藏版磨滅に依り文政十年頃改刻すと云ふ。

9 寛文刻本 大本美濃半紙九行十七字詰

八(四)冊

寛文九已酉年河村利兵衛開版。此版書肆を展轉し、安永五

教行信證諸版本題觀

10 同 同

八(四)冊

卷尾に「寛文十三癸丑仲秋福森兵左衛門板行」^ミ、爾來此書肆の版元の爲福森版と云ふ。或は佛光寺點本と俗稱する。

11 同 同

八(四)冊

福森版展轉し錢屋庄兵衛、丁字屋九郎右衛門の相合版行となる。故に卷尾の「寛文十三癸丑仲秋」のみを残し版元の變轉を示す。

12 同 同

八(四)冊

同上、卷尾に「菊屋庄兵衛、丁字屋九郎右衛門」^ミとあり。

13 同 同

四 冊

同上、菊屋喜兵衛、丁字屋九郎右衛門の相合版行、但し安永五年以後の摺出なれば左の刊記を附す。

14 悟澄校刻本 小本薄葉半紙十行十七字詰

二 冊

安藝本、二百部御免本にして天保七八年比、本派の學徒悟澄、明暦本に校異を加へ、大阪播磨屋五郎兵衛より印行。小刊本本典の先驅たり。

15 立雄校刻本 小本薄葉整刷線入半紙

二 冊

本派本願寺藏版。安藝本減版と共に天保九年頃本派玄雄勸學が明暦本を縮小翻刻す。別に教行信證校正一冊を附す。

卷尾に「龍谷山開藏」の朱印を添す。

16 同覆刻本 同

坊間に於て前上の藏版本に依り覆刻せらるるもの。京都西村九郎右衛門發行。

17 天保校刻本 大本美濃半紙九行十七字詰 四 冊

大谷派本願寺藏版、安永五年寛永版燒株を書肆（當時丁子屋九郎右衛門、錢屋庄兵衛の共有）より買上げ、後天保十一年五月寛永本に訂正を加へ之を覆刻す。卷尾に「寛永丙子孟春新刊、天保庚子仲夏再鐫」と記し、「本願寺藏」の朱印を添す。

18 濱谷校刻本 小本薄葉堅綴入半紙 二 冊

佛光寺藏版。天保十四年八月、寛文本に依り「教行信證校正」を附し、文類聚鈔、思禿鈔二門傍、教行信證捷覽等と共に印刻。卷首に天台座主二品教仁親王と同時二十四世眞導上人の序を、卷尾に左亟相齊信の跋を附す。本典の序跋は之を始ます。

19 縮刷大藏經本

中本半紙版五號活字二十行四十五字詰

明治十八年十二月弘教書院刊行、縮刷大日本大藏經霧峠第九冊編入。本派本願寺所藏の古本と明暦大本を（赤松連城、青木達門二師に依り）對校、蓋し本典鉛活本の最初ならん。

20 真宗聖典全書本 洋本薄半截版五號活字十一行

後藤環爾編輯。明治四十年八月三十日東京市神田區文會堂書店發兌。

21 同

同（薄葉）

三 冊

21 明治鉛活本 洋本薄版三號活字八行十七字詰 中本半紙版二號活字 八行十七字詰 四 冊

高田派專修寺藏版。宗祖見眞大師六百五十四忌記念として明治四十五年四月十日發行。或は云ふ同時重寶の祖典を校訂刊出したるものなり。

22 大正鉛活本 洋本薄版三號活字八行十七字詰

佛教大學藏版。大正九年六月二十日同大學出版部より發行 中井玄道校訂、寛永版等七本對校、阪東本等十二本參照す 別に附錄「異本解說、校正標異、引文一覽、索引」一卷を添ふ。

23 協會本 假綴菊版五號活字十五行二十七字詰

大正十二年四月一日大日本眞宗宣傳協會、宗祖見眞大師立 教開宗七百年記念刊行、眞宗の世界臨時增刊（第三卷第五立 號第五轉）に編入。佛教大學藏版中井玄道校訂本に依る。

24 西本願寺大正鉛活本

大正十二年十二月 西本願寺大正鉛活本 大正十二年十二月 萬葉十

1 教行信證六要鈔會本

大本美濃半紙堅綴入八行十七字詰

十 冊

寶曆十年庚辰春二月、大谷派學侶圓爾が始めて本典と六要鈔（割注さず）を會合し、且つ寛文本に依り寛永、正保明暦の刊本を對校し京師に於て教卷を上梓するのみにて逝く。弟子金鳳遂に安永八年に創闘の功を金からしむ。本典との會合並に校異を冠頭に掲ぐる等は之を以て始ます。本版は初め錢屋庄兵衛、丁子屋九郎右衛門の版行、後大谷派本願寺藏版となり。明治に入りて坊間に小本として翻刻す次の諸本參照。

大谷派本山藏版。卷尾に「本願寺藏」の朱印を捺す。

3 同翻刻本 小本同

前上 藏版本を縮小翻刻したる坊間本にして、明治十八年九月京都書肆西村九郎右衛門より刊行。

4 同坊刻本 同

京都書肆法文館より刊行。前上の版により而も中下の二巻を改刻變換したものなり。

5 同真宗寶典本 四六版

五號活字十三行三十字詰

山本貫道編纂。明治二十二年十一月三日東京市京橋區築地眞宗寶典出版所刊行。漢文部編入。會本活寺印行の始めにして蓋し本典を洋紙に印刷せしは之を嚆矢させるもの、如し。

6 同真宗聖教大全本 菊版五號活字十六行

横川藤太郎の名を以て明治三十六年十二月十八日金澤市石浦町湊文堂發行真宗聖教大全中巻漢文部に編入。

7 同冠註本 小本 銅版

五 冊

清井湛靈、稻葉敷川編輯明治四十一年四月二十日京都西村九郎右衛門刊行、圓爾の會本を縮小し前三卷は湛靈、香月院に依り。後三卷は敷山、皆往院に依りて冠註し、更に序跋を附す。本文の型式は前上翻刻本の縮小なり。

8 教行信證鈔 大本美濃半紙十行二十字詰 十五冊

卷尾に「貞享三年丙寅曆初秋吉日五餘橋通屋町丁宇屋西村九郎右衛門開版本書は高田派學匠慧雲が教行信證の文を掲げつ、逐次に註釋を施せるものなり。

教行信證諸版本展觀

9 教行信證講義 洋本 菊版五號活字 三 冊

赤沼智善、山邊習學著。大正二年二月二十日(上巻)大正三年六月二十五日(中巻)大正五年六月二十五日(下巻)東京集鳴無我山房發行。漢文本典を掲げ、更に讀方として延書を添へ逐次講説せるものなり。

10 教行信證訓註 洋本 四六版五號活字

前上二師、本典を分科し、讀方字解、文解を施し大正一年八月二十五日東京集鳴無我山房より發行。

11 佛教大系本 洋本 菊版三號活字

東京集鳴佛教大系刊行會發行。本典に東西學匠の講義を以て會本せるものなり。

延 畫

1 萬延刻本 小本 薄葉七行

大谷派本願寺藏版。實如上人眞本(越中井波瑞泉寺藏)に依り「萬延二辛酉歲」印刻。本典延書刊行の嚆矢なり。

2 同覆刻本 小本 同

四 冊

京都丁子屋より前上の藏版を覆刻し、坊間に行はるもの

3 校訂本 中本 七行

四 冊

大高文進校訂。明治十四年九月刻、京都三書肆より發兌。

4 真宗聖教大全本 菊版五號活字

四 冊

明治三十六年十二月、八日發行、上巻假名部に編入、鉛活延書本の始か。

5 親鸞聖人全集本 洋本 四六版平假名五號活字十二行

南條文雄、前田慧雲、村上専精監修。明治三十九年四月十日東京市本郷區文明堂發行。藏版本を以て上巻に編入、平假名鉛活延書本の始か。

6 親鸞聖人全書本

洋本 四六半截版五號活字十一行

住田智見編輯。明治三十九年四月五日京都法藏館發行。藏版本に依る。

7 真宗聖典續篇本

洋本 四六半截四號活字八行

細川法船編輯。明治三十九年六月五日西村護法館發行。「教行信證延書」を題し真宗聖典の續篇として他に五部の祖典を附す。藏版本の轉掲。

8 真宗聖典本

洋本 菊半截平假名五號活字十四行

浩々洞編纂。宗祖見眞大師六百五十回紀念として明治三十九年十月一日東京東鳴無我山房發行。藏版本の轉掲。

9 同五十五版紀念本

洋本 四六版平假名ポイント活字

前上の五十版記念として大正六年四月同所より改版刊行。

10 同訂正改版本

洋本 四六版平假名ポイント活字
二段組二十一行

前上の聖典を更に大正十三年九月五日訂正改版す。

11 大正真宗聖典本

洋本 菊半截版平假名五號活字
十四行

大正二年三月十日京都興教書院編輯部發行、漢文和譯。

12 簡易真宗聖教本

洋本 四六版平假名五號活字
十四行

加藤智學編纂。大正二年四月十五日東京東鳴無我山房。發行後篇に編入。抄譯。

13 嘗用正譜真宗聖典本

洋本 四六半截版五號活字
十一行

住田智見、大須賀秀道、立花慧明編輯大正三年九月十日京都法藏館發行。藏版本轉掲。

14 譯註愚禿親鸞全集本

洋本 四六版平假名ポイント活字
五號活字十四行

可西大秀、蓮沼文範編大正十一年九月二十五日東京日本橋區磯部甲陽堂發行。

15 愚禿親鸞全集本

洋本 四六版平假名ポイント活字
十四行

江部鳴村編大正十一年十月八日東京芝區藏經書院發行。

16 新撰真宗聖典本

洋本 菊半截版平假名五號活字
十四行

真宗各派代表者監修大正十二年三月三十日發行京都中外出版株式會社編輯部編。善如上人俊玄の延文五年延書本を平假名活字にて轉掲。

17 阪東本教行信證延書

洋本 菊版五號活字十四行

日下無倫。大正十二年四月一日京都丁字屋發行、阪東本教行信證を延書し下總稱名寺所藏の「教行信證音訓」を對照す。

18 意譯真宗聖典本

洋本 四六版平假名五號活字十三行

大正十二年九月五日京都法藏館發行、宗祖列祖部に意譯掲出。

自 釋

本書は嘗て慧空本典の宗祖自釋の文を抄し捷覽に供ふ。後安永九年了行、寶月、宣明、慧見、道瓊諸師之を重校補正し「教行信證御自釋」を題して韻圖に付す。これ寛文本を以て寛永、正保、明暦の諸本を校し、字傍並に冠に註せしこざ凡例、跋文に示せるが如し。卷尾に「西郷九郎右衛門齊藤庄兵衛合刻」があり。

2

同 同

一 冊

卷尾に「西郷九郎右衛門、今井喜兵衛合刻」。

3

同

一 冊

大谷派本願寺藏版、卷尾に「本願寺」の朱印を捺す。是れ先の版本を書肆より買上げて印行せらるゝものなり。

4 安永縮刷本

小本

一 冊

坊間にて前の大本を便利縮小刊行せるもの。卷尾の安永九年重校補正の奥記を省けるものあり。

5 同

一 冊

大谷派本願寺藏版。卷尾に「本願寺」の朱印を捺す。大本と同く版本買上げ後の摺出。

6 同覆刻本

同

一 冊

前上小本を坊間にて覆刻せるもの。護法館西村九郎右衛門刊行。

7 捷覽本 小本 疊界線入十行十七字詰

一 冊

佛光寺藏版、大谷派本山藏版小本を翻刻し「教行信證捷覽」を改題す。同寺藏版小本本典等に添て流行。

8 同

同

一 冊

同刻本。尾に「天保甲辰秋開版、瀧谷學林藏、支配所中島利左衛門」があり。

9 同

同刻本。書肆の名を記して坊間に行はるゝもの。

一 冊

10 同 大正校訂本 小本 四號活字十行十七字詰

住田智見編輯。大正二年十月五日「大正校訂教行信證御自釋」を題し京都法藏館より刊行。藏版本に依り更に阪東本教行信證等を校し、鳳嶺の分科を掲げ、且つ本文に按配し御引用書部の卷次紙目を具に上頭に標して考索に便ならしむ

11 真宗聖典本 洋本 四六半藏版五號活字九行二十字詰

是山惠覺編。明治三十八年九月十二日京都八書林發行「教行信證」の御自釋を適宜に掲出せるものなり。

12 聖典本 洋本 四六半裁版平假名六號活字十四行

島地大等編纂大正八年九月二十八日家京明治書院發行の聖典(淨土真宗)に編入。これ教行信證の御引文を省略し所謂御自釋の體裁を以て、且つ延書をせるものなり。